

吟道月報

No.14
18.9.5

頌心会

この行に世話役員会をやつていた、いた根岸清風副会長が、年の暮十二月半に入

昭和四十五年夏の行幸に十月三日、四日の法風先生

展覧諏訪吟行会がある。バス一台を借切り同僚五一名が参加した。午前七時一色を出発、元町、湊子を経て大船で全員合同西湘コースを西へ、奥本節詩の湘南の潮水は渺として天に連り……に始まり吟声と共に河口湖に大休止、甲府昇仙猿を経て下諏訪の旅館に四時に入る。借切り旅館で夜の更けるまで吟声を肉く翌朝九時出発。地蔵寺墓前に大合吟、本堂にて読経岳風先生ゆかりの書院、庭園に心ゆくまで遊び記念館を拜観後、白樺湖、葡萄狩り、雨の相模湖を経て八時過ぎ大船着散会した。余り盛沢山だったのと帰途後半の雨のみが遺憾であった。

院、翌四十六年正月早々急逝された。頌心会育ての親、事ある毎に積極的に吟道の爲に昼された功績と、その御恩は忘れられない。皆仏清岳を追贈された。

四十六年の初吟会は、大船支部の世話で農協の会館で行なわれ九十数名参加盛大であった。二月十四日には大船支部開設五周年大会が鎌倉市商工会議所地下ホールで行なわれ、全支部員の献身的協力で終始盛会を極めた。五月二日の国立教育会館で行なわれた六十回全国大会には頌心会から三十名の合吟コンクールに四支部連合で出場したが、惜しくも並に漏れた。五月十六日の湮吟舞連の大会には、百十題中四十二名が参加した。此の時から名称を湮子市詩吟舞連盟と改称することになった。カ二十五回県大会は、六月六日平塚市東善小学校で行

なわれ、独吟十名と合吟コンクールに一色文節の十名の女性組で出場し、入賞した。

十月三日のオ二十六大回県大会は防大講堂で行なわれ詩舞山中の月を含め十二名出場者を送った。

十一月三日の葉山文化祭十一月五日の夏子文化祭にも、それぞれ更のある内容の行事を造り上げ、頑心念は吟道興隆に、その力を着々確き上げていった。

県本部関係

オ二十九回県本部吟道大会は十月十四日(日)大和布中央文化会館で開催される、頑心念よりの出吟者左の通り。

名 檜 日本号 高梨安五郎
山中尚答 北村 治泉

芳野懐古 白井 麗泉

四時 佐竹 梢泉

金州城 沼田 義泉◎

城山 矢島 悦泉

陣中作 田上 洲山◎

自詠 渡辺 玲山

静夜思 山口 紫山

静夜思 新井 佳山

神州 守谷 尚山

楠公別子函 千葉 劍風◎

◎印は、役員をお願いします。

出吟者には昼食が①②出ます。出吟料は半額本部負担。二五の田文節又は本人が負担して下さい。至急統務まで送金のこと。

県本部青少年会員名簿

(三才未満)に

左の方を登録しました

高橋 草	初段
内山 文典	二段
芳賀 秀夫	二段
深田 春男	二段
美野 昭代	照泉
笠原 晴美	美山
根岸 晴夫	深山

碓氷会本部関係

◎ 拓風先生展覽会訪問行会の参加者、現在八七名、尚十名位の子席があります。振るって参加を希望します。

会員異動

未報告の分は、十月の月報に

新会員

桜山支部	井上干代子	碓子ニ一三〇五	電(71)二、八〇〇
建設支部	井沢 スズ	堀内二五五	電(75)〇四九八
"	小峰 さく	堀内二九八	電(75)〇一一四
"	飯田 フク	堀内二〇五	電(75)〇七五九
"	小峰 勝治	堀内二五五	電(75)五〇六八

退会々員

碓子支部	近藤 英泉
"	柿内 昭二
大船支部	諸勤 天山
"	守屋 和夫
長柄支部	根岸 国山

浪合々員 つづぎ

長柄文節	笠原 昭山
"	君身 尊泉
山の根文節	野田 信義
"	栗原 たか
"	鈴木 亮一

◎ 黒田老山氏に奥伝と雅号
詠風を追贈されました。